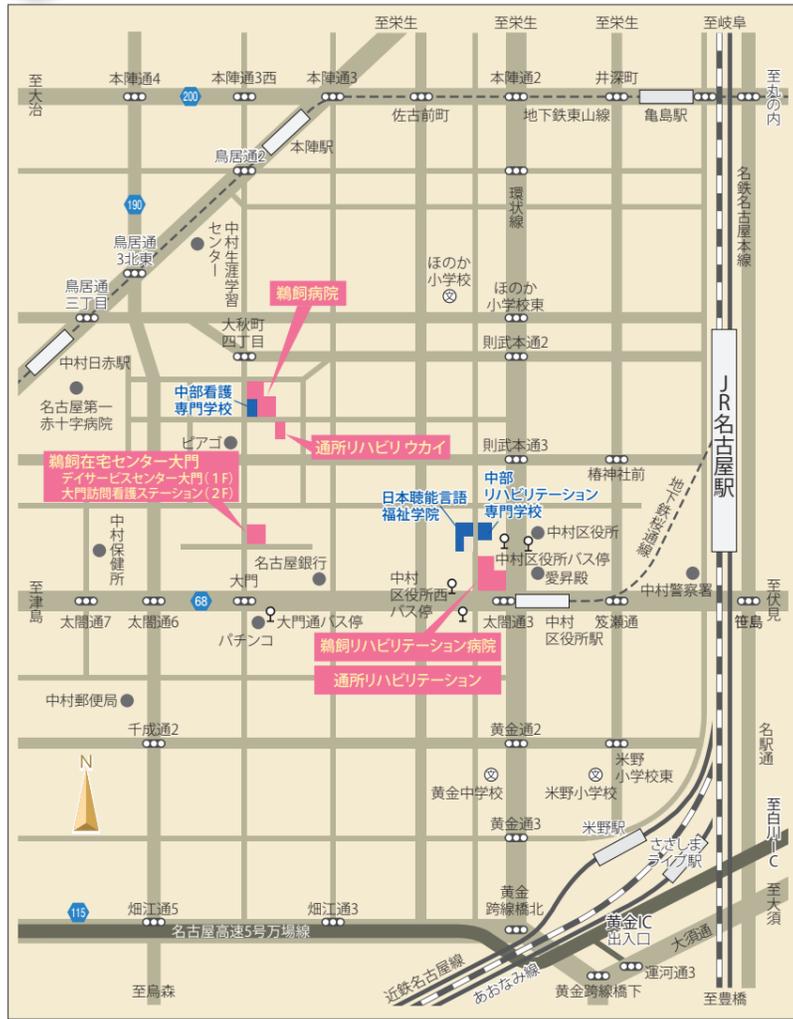


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「中村区役所」①出口より.....徒歩約 1分
- 市バス・名鉄バス/「中村区役所」下車.....徒歩約 1分
- JR名古屋駅太閤通口より.....車で約 5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ.....車で約 5分



当院は、  
医療機能評価  
認定病院です。

医療法人 珪山会  
鵜飼リハビリテーション病院

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通 4-1  
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231  
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

時代のニーズに応える  
珪山会グループ

**鵜飼 病院**  
TEL 052-461-3131  
FAX 052-461-3136  
名古屋市中村区寿町30

**鵜飼リハビリテーション病院**  
TEL 052-461-3132  
FAX 052-461-3231  
名古屋市中村区太閤通 4-1

**通所リハビリテーション**  
TEL 052-461-3237  
FAX 052-461-3238  
名古屋市中村区太閤通 4-1

**通所リハビリウカイ**  
TEL 052-461-9195  
FAX 052-461-3107  
名古屋市中村区寿町 6-1

**デイサービスセンター大門  
(鵜飼在宅センター大門 1階)**  
TEL 052-461-3204  
FAX 052-461-3214  
名古屋市中村区賑町26

**大門訪問看護ステーション  
(鵜飼在宅センター大門 2階)**  
TEL 052-471-2533  
FAX 052-485-9702  
名古屋市中村区賑町26

**中部リハビリテーション専門学校**  
TEL 052-461-1677  
FAX 052-471-2333  
名古屋市中村区若宮町 2-2  
<http://www.chureha.kzan.jp/>

**中部看護専門学校**  
TEL 052-461-3133  
FAX 052-483-0873  
名古屋市中村区寿町29  
<http://kango.kzan.jp/>

**日本聴能言語福祉学院**  
TEL 052-482-8788  
FAX 052-471-8703  
名古屋市中村区若宮町 2-14  
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院  
ハートフル情報誌  
ReHappy!  
Vol.80

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

# ReHappy!

リハッピー

Vol.80

発行人/鵜飼泰光  
発行/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会  
名古屋市中村区太閤通 4-1  
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>  
編集/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会  
編集グループ  
編集協力/プロジェクトリンク事務局  
発行/令和4年7月1日

〈特集〉

患者さんの思いを把握し、  
その実現に向けて全力を傾ける。



# 患者さんの思いを把握し、 その実現に向けて全力を傾ける。

医療法人珪山会グループの理念である  
〈患者さん第一主義〉をテーマに展開する特集シリーズ。  
第2回は、各専門職のアセスメント(※)に焦点を当て、  
スタッフがそれぞれの専門性を発揮しながら情報を収集し  
〈患者さん第一主義〉を実現していく姿を追っていきたい。

※医療現場におけるアセスメントとは、  
患者さんの個別の課題を把握するために、  
患者さんの主観的・客観的情報を収集し、  
分析・評価することを指す。



医師 津金 慎一郎

## 右麻痺と失語症が残る 患者さんが転院してきて。

昨年秋、鶴飼リハビリテーション病院に、高血圧性の脳出血を発症し、急性期治療を終えた患者さん(Tさん・50代女性)が転院してきた。このとき、Tさんは右側上下肢の麻痺と失語症がある状態で、目線は定まらず、表情はぼんやりしていた。なぜこんなことになってしまったのだろう... 障害の現実をまだ、受容できていなかった



のかもしれない。

Tさんを診察したのは、主治医の津金慎一郎である。「最初はとにかくコミュニケーションが難しかったですね。単語は出てくるのですが、構音障害(言葉を理解しているが、うまく発音できない状態)があり、ろれつも回りにくく、何度も聞き返したりしながら、お話を聞きました。また、右側の麻痺も強く、手指はほとんど動かさない状態。リハビリテーションを行えば、装具と杖を使って歩けるようにはなると思いましたが、右の手指の障害は残る可能性が高かったです」。

診察を終えた津金は、Tさんの脳の状態と全身の健康状態を評価するために、脳のCT検査と血液検査を行うよう指示した。CT検査では、出血がどの程度脳を圧迫しているか、また出血量が増えているかなどを確認。血液検査では、肝機能、腎機能、炎症、貧血の有無などをひと通り確認する。「Tさんの場合、脳出血は落ち着いていて、血液検査もコレステロール値が高いことをのぞいては問題ありませんでした。但し高血圧があるので、血圧の管理をしっかりやりながら、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を行っていこうと判断しました」と津金。この後も2カ月に1度の周期で、CT検査と血液検査を行い、全身状態をしっかりとチェックしていった。「チームのなかでは、患者さんの全身状態をアセスメント(情報収集と分析・評価)することが医師の役割になります。患者さんのどんなところに注意しながらリハビリテーションを行っていかばよいか、という指針を示し、患者さんの安全を守ることを第一に考えています」(津金)。

めざましい回復と、  
〈復職〉という新たな目標設定。

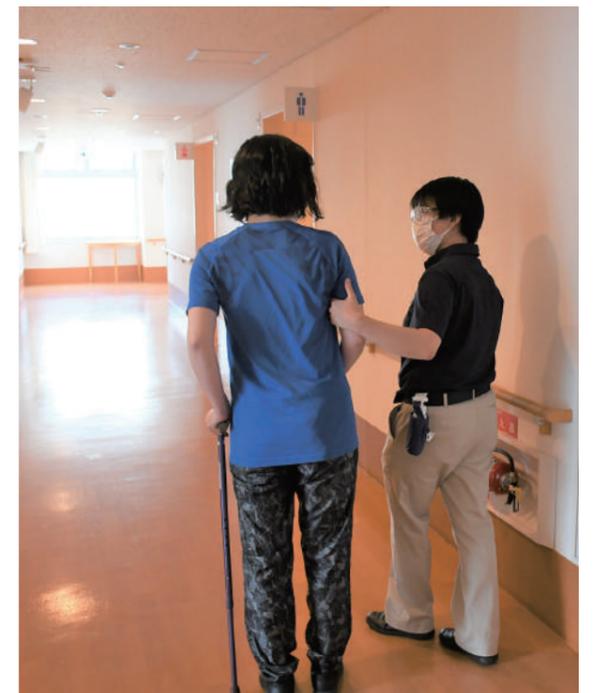
## めざましい回復と、 〈復職〉という新たな目標設定。

Tさんは熱心にリハビリテーションに励み、めざましい回復を見せていった。歩行については、平行棒を使っての訓練からスタートし、装具を使っての歩行、杖の歩行へと着実にレベルアップ。ほとんど動かなかった手指も、リハビリを2カ月くらい行くと、少しずつ使えるようになっていった。また、失語症も改善し、自分の意思をスムーズに伝えられるようになっていた。看護師の伊藤里帆は、そんなTさんの病室を頻りに訪ね、会話を重ねてコミュニケーションをとった。「看護師は、チームのなかで患者さんに最も身近に接する専門職です。だからこそ、常にコミュニケーションを図り、患者さんの心と体の状態をしっかりとアセスメントするよう心がけています」と話す。Tさんの心の変化にいち早く気づいたのも伊藤だった。「Tさんは発症するまで、小さな飲食店を切り盛りしていました。最初はそこまで考えていな



5階病棟 看護師 伊藤里帆

かったようですが、体が回復するにつれ、もう一度お店をやりたいという気持ちが強くなったようでした」。伊藤はTさんの復職にける思いをチームに持ち帰り、みんなで議論をした。Tさんは杖歩行ができ、右手もだいたい使える状態。日常生活を送るだけであればすぐにでも退院が可能だった。しかし、お店の経営や料理、接客を考え



ると、そうはいかない。さらなる回復が必要になる。「Tさんの年齢や身体能力から、もっと改善できるのではないかと期待をスタッフみんなが持っていました。そこで、『入院期間を延ばして、もう少しリハビリテーションを続けませんか』とTさんに提案することにしました」と津金は振り返る。この提案を、Tさんは喜んで受け入れた。チームは「Tさんのお店再開」という新たなゴールを共有し、より仕事内容を意識した理学療法、作業療法のメニューを実践していった。

## 退院に向けて、 さまざまな支援を提供。

それから約3カ月、入院期間を延長してリハビリテーションに励んだ結果、Tさんは杖なしの自立歩行を獲得。さらに、障害の残る右手を左手で補いながら、お鍋や包丁を持つこともできるようになった。そしていよいよ、退院は目の前に迫ってきたが、伊藤は一つ気になることがあった。それは、生活習慣である。「Tさんはタバコも飲酒も多く、食事也不規則。しかも一人暮らしです。退院すれば、たちまち以前の生活に戻ってしまい、高血圧性の脳出血を再発するリスクが高いと思いました」。伊藤は生活習慣と高血圧の関係性を折に触れて話すとともに、栄養士の協力のもと〈お酒の適量〉や〈塩分制限の食事〉などの資料を手づくりして渡し、生活指導に力を注いだ。

もう一人、退院に向けて支援に注力したのは、医療ソーシャルワーカー(MSW)の中根 悠である。Tさんの



住まいは鶴飼リハビリテーション病院とは離れていたため、住まいの近くで治療やリハビリテーションを継続できる環境を整える必要があった。中根がTさんにアセスメントするなかで着目したのは「良い治療を続けて、生活の質をもっと高めたい」というTさんの強いこだわりだった。「Tさんからは何度も『退院後にかかる良い医療機関を紹介してほしい』という要望をいただきました。何をもちょう『良い』とするか難しい部分もありましたが、津金さんに信頼できる先生や病院を紹介してもらったりしながら、



医療連携部  
医療ソーシャルワーカー 中根 悠

できるだけTさんの思いに  
医療ソーシャルワーカー 中根 悠  
いに応えられるよう、候補を探しました。自宅からの距離や脳出血・高血圧に関する診療能力、リハビリテーションの充実度などを考えながら、最終的には3つの医療機関を提示させていただきましたね」(中根)。

中根が厳選した候補からTさんは納得のいく医療機関を選び、無事に退院の日を迎えた。「こんなに良くなったのはみなさんのおかげです。ありがとうございます」と、ハキハキと語るTさん。その元気な姿を見て、津金をはじめ、チームのスタッフは大きな喜びを共有した。努力家のTさんのこと、お店のカウンターに立てる日もきっと近くに違いない。



## スタッフがそれぞれアセスメントして〈患者さん第一〉の支援をめざす。

Tさんの事例を振り返りながら、津金医師は多職種によるアセスメントの大切さを改めて実感したという。「入院2か月くらいの時点で、身体の状態だけ見れば、もう退院することもできました。でも、それではTさんの思いに本当に応えたことにはなりません。看護師の伊藤さんが『もう一度お店をやりたい』というTさんの思いを把握したから、入院期間の延長という選択に繋がりました。また、MSWの中根さんは退院後の生活にフォーカスしてTさんの思いを把握し、それを叶えるために全力を

注いでくれました。チームのみんながそれぞれの専門性を活かしてアセスメントしたことで、〈患者さん第一〉の支援が実現できたのだと思います」(津金)。

では、〈患者さん第一〉の支援とはどういうことか、改めてスタッフの意見を聞いてみた。「患者さんを、患者さんとして見ないこと」というのは、中根。「患者さんは患者さんである前に、一人の人間です。医療現場では抜け落ちやすいところですが、その人の家族や生活歴を把握し、そのらしさをチームのみんなに伝える役割を担うよう努めています」。「患者さんの目標に寄り添うこと」というのは、伊藤。「たとえば歩行についても、私たちは患者さんが〈ただ歩くこと〉をゴールにしません。歩いて何をしたいのか、というところまで把握して支援するのが、〈患者さん第一主義〉のリハビリテーションだと思います」と話す。それらの意見に深くうなずきつつ、津金は次のようにまとめた。「やはり患者さんが一番やりたいと思っていることを叶えるためにお手伝いする、ということに尽きるのではないのでしょうか。患者さんを一人の人間として見つめ、患者さんが退院後にしたいことを把握し、オーダーメイドの治療を組み立てていく。その原点を大切に、これからも最善のチーム医療をめざしていきたいと思います」。

# For the Best Rehabilitation

## Topic 1

### 多職種によるアセスメントの重要性。

アセスメントという言葉は、一般的に看護の現場で使われることが多い。しかし、患者さんに質の高い医療を提供していくには、看護師だけでなく、すべての専門職がアセスメントを意識することが重要になる。アセスメントとはすなわち、患者さんの個別の課題を把握するために、患者さんの主観的・客観的情報を収集し、分析・評価するこ

と。各専門職がそれぞれの立場から情報収集や分析・評価を行うことで、患者さんの状態をより正確に把握することができるのだ。

たとえば、医師は、診察や検査などを通じて、全身の健康状態や再発のリスクなどに目を光らせる。看護師は医療と生活の2つの視点から患者さんの状態を分析し、適切



なケアに繋げていく。セラピストは身体機能の回復の視点から、MSWは退院後の生活復帰の視点から、それぞれ患者さんの情報を収集していく。さらに、それらのアセスメント結果をカンファレンスで持ち寄り、情報を統合することで、患者さんの全体像が立体的になるのである。

「患者さんの状態は時間の経過とともにどんどん変化していきます。当院では、各領域のスペシャリストである多職種の目線を尊重しながら、患者さんの〈今〉と身体の状態を正しく評価し、適切な支援に繋げるよう努めています」と津金は話す。

## Topic 2

### カンファレンスで、患者さんの〈思い〉を共有する。

〈患者さん第一主義〉を実践するには、患者さん個々の〈思い〉に着目することがとても重要である。鶴飼リハビリテーション病院では、前年度から、患者さんのリハビリテーション計画について話し合うカンファレンスにおいて、必ず〈患者さんの思い〉をスタッフ全員で共有する時間を設けている。

この取り組みを提案したのは、カンファレンスの質の向上をめざす〈カンファレンスワーキンググループ〉。具体的には、カルテに患者さんの思いを記入する欄を設け、職種を問わず、患者さんの思いを聞き取った職員が、〈患者さんがしたいことや感じていること〉などを記入。カンファレンスでその内容について検討を行っている。同院ではこれまでも患者さんの〈思い〉を大切にしてきたが、カンファレンスやカルテの



なかに仕組みとして取り入れることで、さらなる強化をめざしているのだ。もちろん、患者さんの〈思い〉と一言で言っても、将来的に実現したい希望もあれば、今すぐ改善したい機能や動作への欲求もある。それらをしっかり見極めながら、患者さんの思いに寄り添うリハビリテーションの提供をめざしている。

珪山会  
グループからの  
お知らせ

# Support Party!



## 鵜飼病院

地域に密着した病院として、  
患者さん・ご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



### 施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

## 鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせ、  
専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせて、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っでの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅を訪問しています。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

### 施設概要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方  
ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00  
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 住宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

## 通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと  
同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。



日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。

### 施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方  
ご利用日：月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30  
午後 13:30～17:00

サービス内容

○3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション

○健康状態の確認（メディカルチェック）など

※食事・入浴サービスはありません。  
※3～4時間型は送迎があります。

## デイサービスセンター大門（鵜飼在宅センター大門1階）

今の生活を末永く維持するための  
効果的な予防サービスを提供します。

健康と要介護状態の中間に位置づけられるフレイル（虚弱）状態の改善をめざす専門のトレーニング施設です。

介護保険に加え、自治体が運営する介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）の方が対象となります。

当センターでは、サービス利用にあたり必要な介護保険や総合事業への申請の援助を行います。フレイルの改善したい症状に応じたプログラムをご提案するだけでなく、主体的な健康づくりの習慣づくりに向けた健康講座なども行います。また、PT・OTが常駐して個々の能力や疾病に合わせてアドバイスをしています。



### 施設概要

健康維持・介護予防をはかりたい方を対象に1～3時間程度の集団プログラムをご提供します。

対象：要介護・要支援認定の方、名古屋市の総合事業対象の方

ご利用日：月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）  
ご利用時間：午前 9:00～12:10  
午後 13:00～16:10

サービス内容

○介護保険総合事業申請のお手伝い

○集団トレーニングメニュー

- ・基礎体力づくり
- ・歩行支援
- ・コグニサイズ
- ・シニアヨガ
- ・音楽療法 など

※食事・入浴サービスはありません。

## 大門訪問看護ステーション（鵜飼在宅センター大門2階）

短期間の利用も可能。  
退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



### 施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区（一部）・中川区（一部）

サービス内容

○健康状態・病状観察

○日常生活の支援

○医療処置・カテーテル管理支援

○在宅リハビリテーション

○看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。  
※看護師の24時間対応。